



あいかわ



農業委員会だより

第82号

令和5年1月15日発行

発行：愛川町農業委員会

編集：あいかわ農業委員会だより編集委員会

愛川町角田251-1

Tel046-285-2111(代)



明けましておめで
とうございます！

3年ぶりにふるさとまつり開催！ 友好都市立科町のリンゴです

新年を迎えて

農業委員会会長 落合 貢

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。平素より農業委員会の活動に対し、ご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、昨年は、農業委員会の改選が行われ、現体制での初めての年始を迎えることとなりました。依然、新型コロナウイルスの先行きが不透明であり、予断を許さない状況となっておりますが、この赤々としたリンゴのように、鮮やかで実りがあり、希望にあふれた一年になるよう期待しているところであります。

農業委員会では、改めて感染防止対策を講じながら、地域に根差した活動を推進してまいりますので、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。農業者をはじめ、皆様方のご多幸を祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。

紙面紹介

- 2面 農林業施策の町への要望・新嘗祭（米・粟）
 - 3面 ふるさとまつり・ちよつとひと
 - 4面 まちかどりぽーと（ミマセブルーベリーファーム）
- ・農地募集

農地等利用最適化の推進に関する町への意見・要望

農業委員会は、農地等利用最適化の推進及び農林業施策・予算に関する意見・要望を、町に行っております。本年度も令和5年度に向け、町への意見・要望を提出しました。主なものは次のとおりです。

1 基本農政の確立・推進

◆農業振興地域整備計画について現況にあった計画への改定

2 畜産経営環境保全対策

◆畜産経営上発生する臭気及び汚物関連浮遊物に対するきめ細やかな対応

3 有害鳥獣対策

◆駆除を含めた有害鳥獣対策の継続実施、地域住民とのさらなる連携強化や対策の周知

4 優良農地・土壌保全対策

◆農地法関連事務提要や許可基準等の見直しの実施

5 有機農業の推進

◆国内未利用資源の一層の推進と循環型農業へのシフトについて国への働きかけ



町長（中央）に会長から提出

にいなめさい

新嘗祭にて、愛川町の米と粟が献上されました。

竹松さんご夫婦と落合さんご夫婦

献上された竹松さんの米



献上された落合さんの粟



令和4年の新嘗祭での献穀は、神奈川県では、県央愛川農業協同組合が担当でありました。献上されたお供えものは、竹松正男さん（角田）の米と落合貢さん（中津）の粟です。上記の写真をご覧ください。きめ細やかで美しく、献穀にふさわしい逸品ですね!!

※新嘗祭…稲の収穫を祝い、翌年の豊穡を祈願する古くからの祭儀。天皇が新穀を天神、地祇にすすめ、その恩恵を謝し、また、みずからも食する。

3年ぶり開催！ふるさとまつり3万人来場！



10月23日、好天に恵まれ「愛川町ふるさとまつり」が、町役場周辺で開催されました。

愛川ブランドの認定品販売や町内農産物の直売、地元特産品の地酒販売など、地元の農産物が大人気でありました。

あらためて、町内農産物の偉大さを実感いたしました。これからも本町で地産地消に取り組んでいられる農家さん、

また有機農業に取り組んでいられる農家さん、そして全ての町内農家の皆さん、一緒に本町の農業を盛り上げていきましょう!!

今回は、国内の様々な地域の特産品も販売され、恒例の友好都市・立科町直送のリンゴ販売も大好評で、盛況な賑わいでありました。



ちょっとひと息



「畑にいる虫たち」

G・T委員

私は愛川町で自然農を始めて10年になります。畑に生えている草、カビや菌の仲間、小動物、昆虫などと共存して野菜を育てる農法です。畑ではたくさんの虫たちとの出会いがあります。

ハエトリグモは蜘蛛の巣を作らない小さなクモです。体調は5ミリから1センチ程度。よく家の中にいますが畑にもいます。このクモは本当に凄い！いつも感心させられます。飛び跳ねるし、走っても早いしとにかく一つ一つの行動がまるで考えて行っているようで頭が良さそうです。まず私が近づくと首をこちら側に向けて私のことを見えます。そーっと人差し指を近づけてみると、クモの手の届く範囲に来たら「お手」をします。たまに指の上に飛び乗ってくる者もいます。本当に可愛いです。飛び乗ったらゆっくり近くの他のものところに指を近づけると今度は飛び降ります。皆さんもやってみてください。

木の枝をいじったり強い風が吹いたりすると、ブラーンとシャクトリ虫が糸を吐いてぶら下がってきます。でも地面まで行かずに必ず途中で糸を伸ばすのを止めるんですよ。皆さんは気づきましたか？ちょっと意地悪して、もう少し木を揺らすともう少し糸を伸ばします。でも地面までは行きません。地面には危険がいっぱいなんです。この時点で既にすこいですが、もっと凄いことを見てしまいました。この後また木の上まで登るのですがその登り方！シャクトリムシの口から前足までは5ミリ位しかありません。自分がぶら下がっている糸を口でくわえて前脚で掴んで、5ミリずつ登っていきます。これを繰り返して繰り返して、大変な努力で頭が下がります。更に回収した糸は全て、手の中で持ちながら登って行きます。なので糸の束はどんどん大きくなります。重そうです。僕がこれを見つけた時は木を揺すって4メートル位糸を伸ばさせてしまいました。つまり5ミリずつ登ると言う事は、この仕事を800回も繰り返さないと、もとの葉っぱにはたどり着けないと言うことです。彼には申し訳ないことをしました。反省。



まちかどりぽーと（愛農園ミマセブルーベリーファーム）

新たな就農者に継承された「愛農園ミマセブルーベリーファーム」をご紹介します。

三増の上志田原にオーブンしている「愛農園ミマセブルーベリーファーム」は、約900㎡の農場で1200本のブルーベリーの木が地植えで育てられています。種類は「ハイブッシュ」と「ラビットアイ（ウサギの目）」です。シーズンは6月中旬～9月中旬で、無農薬でブルーベリーを栽培しています。老若男女楽しむことが出来る観光農園です。代表の櫻木彩人さんに、新規就農された理由を聞いてみました。

「毎年、家族でこの農園に、ブルーベリー狩りに来ておりましたが、前経営者の方に跡継ぎがおりず、ブルーベリー農園が

なくなってしまうことから、転職して就農しました。」とのことでした。

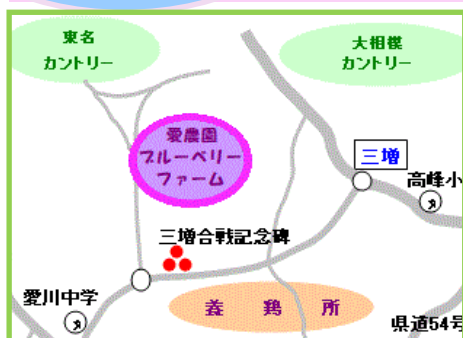
櫻木さんは、このブルーベリー農園から見える愛川の山々を眺めながら、「自然がいっぱいの愛川の良さをアピールしていきたい。都内では、大人の方も、自然を求めている。夏休みの思い出に、3世代で遊びに来てもらえる観光スポットにしたい。」とおっしゃっておりました。また、苦労話を伺うと、「ブルーベリーの木の本数が多いので、管理は大変ですが、

代表 櫻木 彩人 さん



令和5年6月から、「ごきげんブルーベリーファーム」に名称変更します。よろしくお願いします！

土を触って癒されたり、ストレスはありません。」とのことでした。完熟したブルーベリーの味は格別で、種類や木によっても味が違うので、食べ比べも出来るのとことです。今後は、キッチンカー販売やブルーベリーの加工品販売、苗木販売、養蜂など、様々な目標があるそうです。また、そういった事業を通して、町の観光名所を目指し、さらに、ここから町の魅力を発信していきたいとのことでした！



三増合戦碑から東名カントリーに向かって約250m先です

農地募集PR

農地の管理にお困りではないですか？

ご利用されていない農地や、今後の耕作予定がない農地は、新規就農者やあいかわ準農家が大切に耕作いたしますので、貸出にご協力ください。

お問い合わせ先は 農業委員会事務局

電話046-285-2111内線3542

編集委員

委員長 薄 秀一

副委員長 五月女 智一

委員 落合 貢

委員 加藤 一男

委員 諏訪部 衛人

委員 齋藤 増雄

委員 萩原 英治